

6 大和川にかかる橋 その3 遊園地へ誘う吊橋「玉手橋」



日本最多径間の吊橋

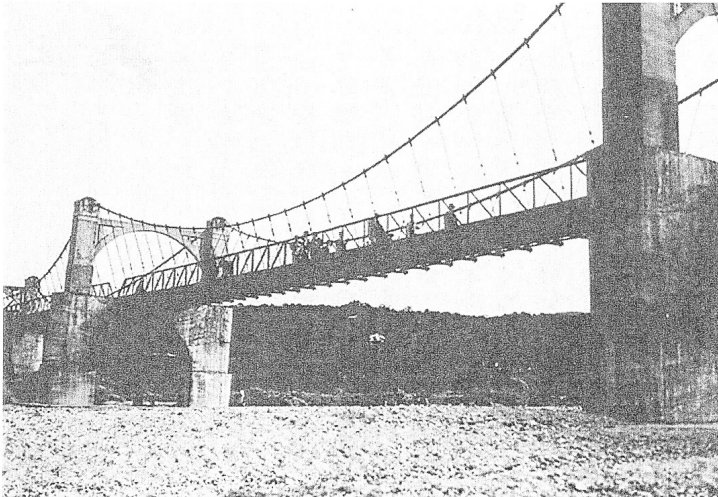
石川をはさんで、藤井寺市道明寺と柏原市石川町・玉手町を結ぶ「玉手橋」は、幅3.3m、長さ151mの多径間吊橋で、日本最多の5径間吊橋として、昭和3年(1928)、大阪鉄道によって架橋されました。昭和初期の形態をほぼ残しており、地域の社会経済的な背景を写す近代の構造物として価値があることから、平成13年(2001)に吊橋としては全国初の登録有形文化財になりました。

架橋以来、歴代の鉄道会社によって管理されてきましたが、昭和28年(1953)に柏原市へ引き継がれ、今日に至っています。部分的に損傷もみられ、必要に応じて補修されていますが、最近では昭和59年(1984)にケーブルの補強工事、平成10年(1998)には塗装工事が行われました。

この吊橋は、明治41年(1908)開園の玉手山遊園地への玄関口にもあたり、親しまれてきましたが、その遊園地も平成10年(1998)に廃園となりました。現在では、玉手山丘陵付近には、住宅が広がり、工業団地も立地し、通勤、通学、買い物などで地元の人に利用されています。

増水のたびに流された仮橋

明治41年8月(1908)、柏原～長野間に蒸気機関車を走らせていた河南鉄道が、「一般公衆遊客ノ清遊ニ供ス」として、玉手山丘陵に玉手山遊園地を開園しました。東京浅草の「はなやしき」に次いで日本で2番目に古い遊園地だと言われました。当時、道明寺方面から遊園地に行く人は、石川に架かっていた板の仮橋を渡っていましたが、この仮橋は、石川が増水するたびに流出しましたので、下流約150mのところの石川橋を渡り、石川・玉手の村をとり、遠く迂回して遊園地に行かざるをえませんでした。いずれにしても大変不便でしたので、河南鉄道から社名変更した大阪鉄道が、開園から20年後の昭和3年に最新式の吊橋を架け、「玉手橋」と名付けました。鉄道会社が列車の通る鉄橋ではなく、歩道橋を架橋したのですから驚きますが、この年には、道明寺～長野間の複線化が完成し、藤井寺球場も竣工しており、鉄道各会社の誘客による多角経営の拡張が背景にあったようです。



昭和初期の玉手橋（写真提供 近鉄資料室）

参考資料 3)

景観に配慮した吊橋

吊橋を支える4つの塔は、橋板をはさんで上下に円弧アーチを配し、塔と塔を結ぶ5組の主ロープの放物線も美しく、とてもお洒落な吊橋です。架橋当時は周りの丘陵や古墳などの景観と一体となっていて、橋を渡って遊園地に向かう人たちの気持ちは高ぶったに違いありません。主ケーブルを固定させる大きなコンクリートブロックの親柱は、石川側と道明寺側の両岸にはめ込むように固定され、その道明寺側の親柱の根元に花崗岩製の嵌め石があります。今は、半分くらい埋まっており、刻まれた文字はほとんど判読できませんが、そこには、右から「技師樋口辰太郎 設計主任宮本治嗣 工事監督浅野順一 竹内徳市 工事請負松安善吉」と架橋工事に関わった技術者の名前が刻まれています。モデルとなった橋梁は明らかではありませんが、昭和初期に、景観に配慮し、お洒落な橋を架けた技術者たちの気持ちが伝わってくるようです。

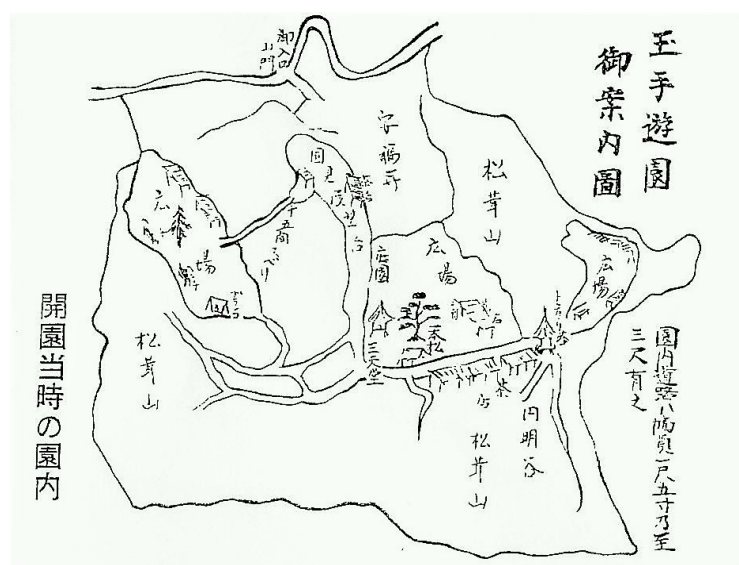


この塔の下に嵌め石のある親柱がある

眺望よい山頂

玉手橋架橋のきっかけとなった玉手山遊園地は、大鐵全史によると「山頂を国見ヶ丘と呼

び、見晴しよく、ここに立てば西北の煤煙にけむる大阪市、晴天には淡路島も望まれた。石川が銀蛇の尾をひき、河内の沃野は一望できる。春には紫つつじの色あざやかに、土筆つみも面白く、秋には松茸狩りに興味が深い。運動用具、無料休憩所を設備し、一家揃っての散策に好適な施設である」と当時の様子を振り返っています。また、その頃の園内の様子を伝えた朝日新聞には「・・近頃追々繁盛し、料理店の河芳亭を始め数軒の茶店できたれば飲食するには便利よし国見(くいま)が丘の名に背かず、大和川の築留を右に控えて眺望すぐれたり・・」(明治41年4月5日)との記事があり、飲食店もあったことがわかります。大阪の湊町(現在の JR 難波駅)発長野行列車は平日1時間ごとに運転され、湊町より道明寺往復26銭でした。玉手橋付近は、大坂夏の陣道明寺合戦の戦場ともなった場所です。NHK「真田丸」ブームもあり、最近では戦跡を巡る人たちが渡っていることも少なくありません。(勝部 2016/12)



参考資料 5)

参考資料

- 1) 『文化財基礎調査概報—近代遺産』 柏原市教育委員会、2003
 - 2) 『大鐵全史』 近畿日本鉄道㈱、1952
 - 3) 石田成年「近鉄南大阪線の歴史をたどって」『近畿文化671号』 近畿文化会事務局 2005
 - 4) 石田成年「近鉄南大阪線の歴史をたどって」『近畿文化782号』 近畿文化会事務局 2015
 - 5) 西條一雄「70周年を迎えた玉手山遊園地」『ひかり盛夏号』 近畿日本鉄道㈱社内誌 1978
- * 今回でシリーズ「大和川にかかる橋」を終了します。